

# **鞍手町歴史民俗博物館基本構想**

2021年4月

**鞍手町教育委員会**

# 目 次

<b>1. 鞍手町歴史民俗博物館の概要</b>	1
（1）鞍手町の歴史	1
（2）設立された経緯	1
（3）位置	2
（4）博物館の建物概要	3
（5）収蔵資料	6
（6）入館者数	6
（7）町内外者の入館割合	7
（8）運営方針と体制	7
（9）博物館の事業	7
<b>2. 博物館の課題</b>	11
（1）施設の課題	11
（2）展示機能に関する課題	11
（3）資料の保管・整理に関する課題	11
（4）事業に関する課題	11
<b>3. 基本構想の策定にあたって</b>	12
<b>4. 博物館の活動方針</b>	13
（1）鞍手町が目指す博物館像	13
（2）博物館が目指す活動内容	14
<b>5. (仮称)博物館別館の目指す整備の概要</b>	16
（1）整備の方針	16
（2）(仮称)博物館別館の構成	17
（3）建設予定地の立地環境	22
（4）(仮称)博物館別館に係る概算事業費と事業スケジュール	22
<b>6. 新博物館の管理運営方針</b>	23
（1）基本方針	23
（2）資料保存・活用	23
（3）教育普及	24
（4）調査・研究	24

**資料 近隣の石炭関係展示施設**

## 1. 鞍手町歴史民俗博物館の概要

### (1) 鞍手町の歴史

鞍手町は、町域の西側を西山山系、南側を、六ヶ岳をピークとする丘陵に限られ、町の南より北東部に向かって扇状に広がる。その平野は町の東側の一部に限る遠賀川と、町の中心部を北上する西川との河岸部にあたる。西川は、六ヶ岳の西麓を源とし、鞍手町を縦断し下流にて遠賀川と合流する。

鞍手町の歴史は、縄文時代にまで遡る。西川流域において新延貝塚、古月貝塚が確認され、人骨や土器が出土した。弥生時代の遺跡は、西川及び遠賀川流域に点在し、甕棺墓(かめかんぼ)や、土壙墓(どこうぼ)が確認されている。古墳時代は、新延大塚古墳、古月横穴など6世紀～7世紀ごろの遺跡が多く存在する。平安時代の仏像である長谷観音や中山不動尊、室町時代の剣岳城跡、江戸時代の伊藤常足旧宅などの文化財があり、無形文化財では、永谷万年願盆綱引き、剣神社遷宮行列、六嶽神楽など現在まで続くものもある。

縄文時代から各時代にかけて文化財が存在していることから、古くから人々の暮らしがあり、歴史の深い地域であることが分かる。

### (2) 設立された経緯

鞍手町歴史民俗博物館は、昭和60(1985)年に資料館として開館した。

当館の建設の経緯は、以下の通りである。

昭和40年代から50年代にかけて、町内では山陽新幹線や九州縦貫自動車道の建設工事のため、多くの遺跡が調査され、遺物が出土していた。当時、町には自分たちの町の歴史を示す出土遺物を保管する施設がなく、県の施設に保管されていた。

そこで、地域の人や子どもたちに町の歴史を示すこれらの出土品を、町で保管したいという思いから、町の有志で「鞍手を知る会」を発足し、歴史資料の保管場所の建設を推進する活動を始めた。

この活動がきっかけとなり、町内の民家で眠っている民俗資料(農具、生活用具)など多くの資料が収集され、その保管場所として、旧鞍手分校に一時保管されることとなった。約10年にわたる資料収集活動により、校舎1棟分の資料が保管されることとなった。

本町では、これらの資料の保管及び展示を目的として、昭和59年度の国宝重要文化財保存施設の補助金を受け、本館を建設し、展示準備を経て、昭和60年11月3日に鞍手町歴史民俗資料館が開館した。その後、収蔵庫が手狭だったこともあり、昭和62(1988)年度の国宝重要文化財保存施設の補助金を受け、埋蔵文化財収蔵庫を建設した(昭和63年2月29日竣工)。建設当初の計画で、石炭文化を展示する構想があったため、新たに別館として、平成2(1990)年3月30日に石炭資料展示場を開館した。それに伴い石炭資料保管庫を建設した。その後町内の大規模開発に伴い収蔵施設がさらに手狭になったため、埋蔵文化財倉庫2棟を建てることとなった。

本館は博物館法による博物館登録の指定を受けるため、平成23(2011)年7月26日付けで登録の申請を行った。その後同月29日に福岡県による現地調査が行われ、8月24日、博物館法第2条に規定する博物館として登録(登録番号23)された。12月の鞍手町議会で関係条例を改正し、鞍手町歴史民俗博物館に名称を変更した。

### (3) 位置

鞍手郡鞍手町大字小牧 2097 番地

当館は鞍手町文化体育総合施設内（中央公民館、武道館、体育館、弓道場、旧野球場、グラウンド、テニスコート、総合プール）の北側に位置する。



新庁舎建設予定地周辺航空写真



鞍手町文化体育総合施設配置図



#### (4) 博物館の建物概要

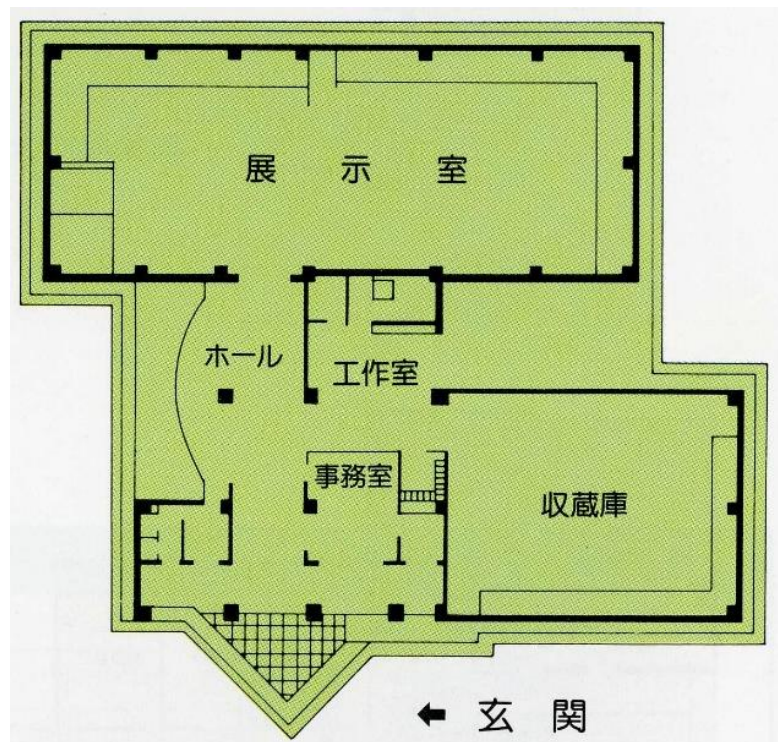
①本館：歴史民俗資料館(現歴史民俗博物館)

- ・鉄筋コンクリート造平家建
- ・敷地面積 3,000 m<sup>2</sup>
- ・建築面積 787.78 m<sup>2</sup>

主な各室の内容は、展示室 382.80 m<sup>2</sup>、収蔵庫 184.62 m<sup>2</sup>、工作室 49.50 m<sup>2</sup>、ホール 57.43 m<sup>2</sup>である。



歴史民俗博物館本館写真



歴史民俗博物館本館平面図

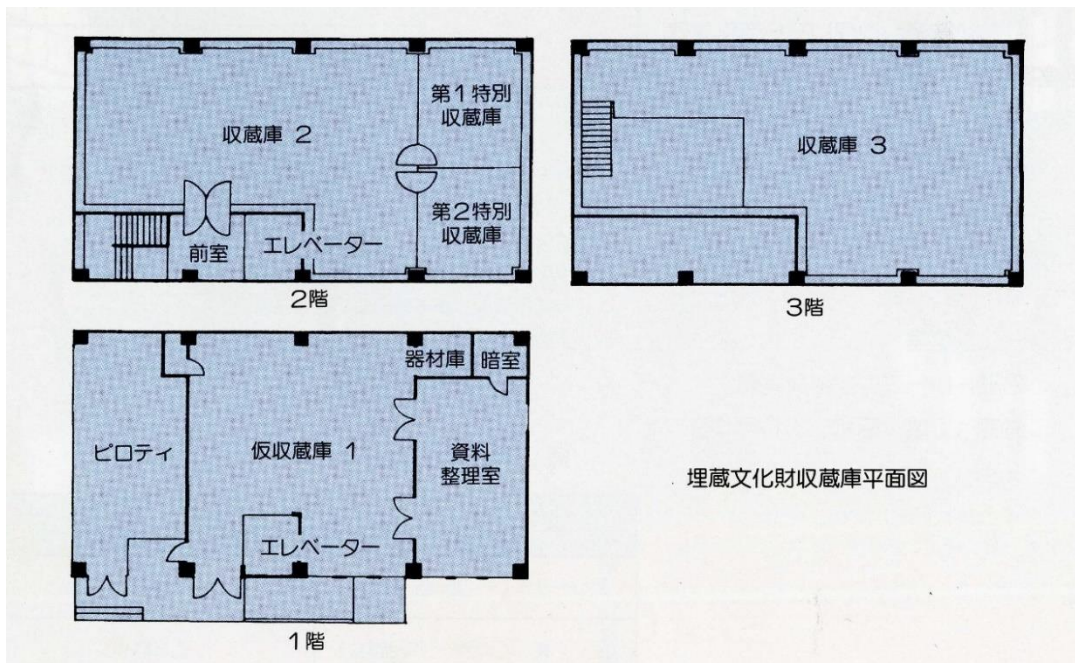
## ②埋蔵文化財収蔵庫

- ・鉄筋コンクリート造2階建（中3階）
- ・敷地面積 528 m<sup>2</sup>
- ・建築面積 577.03 m<sup>2</sup>

主な各室の内容は、1階 207.65 m<sup>2</sup>、収蔵庫 107 m<sup>2</sup>、資料整理室 43.5 m<sup>2</sup>、機材庫 5 m<sup>2</sup>、ピロティ 44.99 m<sup>2</sup>、2階収蔵庫 130.50 m<sup>2</sup>、特別収蔵庫（1）28.50 m<sup>2</sup>、特別収蔵庫（2）25 m<sup>2</sup>、中3階 収蔵庫 155.38 m<sup>2</sup>である。



埋蔵文化財収蔵庫写真





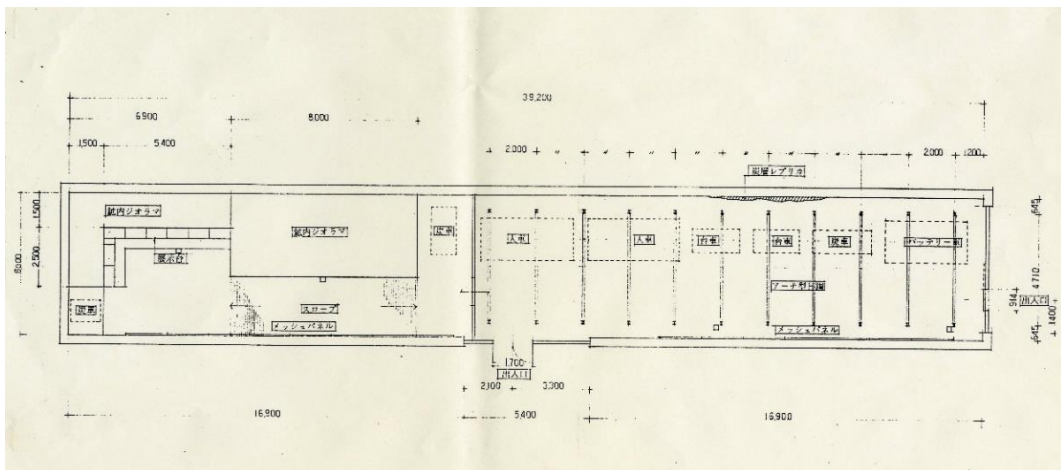
### ③石炭資料展示場

- ・ボックスカルバート 20m×2個（高さ4m、幅6m）
- ・敷地面積 505.8 m<sup>2</sup>
- ・建築面積 240 m<sup>2</sup>（展示室）

主な展示室の内容は、近代化された坑道の再現コーナー132 m<sup>2</sup>、採炭現場 66 m<sup>2</sup>、小ヤマのコーナー42 m<sup>2</sup>である。



石炭資料展示場写真



石炭展示場平面図

- ④埋蔵文化財倉庫 1  
プレバブ平屋建 82.5 m<sup>2</sup>
- ⑤埋蔵文化財倉庫 2  
プレバブ平屋建 21.6 m<sup>2</sup>
- ⑥ 石炭資料保管庫  
プレバブ平屋建 66.24 m<sup>2</sup>
- ①～⑥合計面積 1,775.15 m<sup>2</sup>

### (5) 収蔵資料

・考古学資料	956 ケース	埋蔵文化財収蔵庫	埋蔵文化財倉庫
・民俗資料	15,468 点	本館収蔵庫	埋蔵文化財収蔵庫
・歴史資料	7,590 点	本館収蔵庫	埋蔵文化財収蔵庫
合計	24,014 点		
・図書	8,255 冊	埋蔵文化財収蔵庫	

### (6) 入館者数

年度	西暦	開館日	合計	大人	子供	男	女	町内	町外
令和元	2019	258	2,408	1,675	733	1,364	1,044	715	1,693
平成30	2018	287	2,797	1,758	1,039	1,429	1,368	1,034	1,763
平成29	2017	282	2,462	1,353	1,109	1,372	1,090	1,066	1,396
平成28	2016	224	2,338	1,644	694	1,173	1,165	959	1,379
平成27	2015	288	2,385	1,677	708	1,308	1,077	926	1,459
平成26	2014	293	3,080	2,285	795	1,271	1,809	1,110	1,970
平成25	2013	284	3,686	2,101	1,585	1,847	1,839	1,589	2,097
平成24	2012	291	2,654	1,515	1,139	1,421	1,233	1,289	1,365
平成23	2011	285	1,909	1,237	672	975	934	800	1,109
平成22	2010	284	1,665	1,186	479	967	698	689	976
平成21	2009	285	1,777	1,185	592	1,002	775	850	927
平成20	2008	275	1,951	1,350	601	1,181	770	885	1,066
平成19	2007	279	2,044	1,375	669	1,155	889	1,220	824
平成18	2006	270	3,731	2,532	1,199	2,184	1,547	2,143	1,588
平成17	2005	275	2,559	1,604	955	1,502	1,057	1,426	1,133
平成16	2004	279	1,923	1,185	738	1,261	662	802	1,121
平成15	2003	268	1,758	1,262	496	1,186	572	894	864
平成14	2002	268	1,949	1,266	683	1,139	810	886	1,063
平成13	2001	292	2,765	1,336	1,429	1,752	1,013	1,709	1,056
平成12	2000	281	2,355	1,472	883	1,559	796	1,309	1,046
平成11	1999	288	3,694	2,249	1,445	2,591	1,103	2,158	1,536
平成10	1998	270	3,403	2,340	1,063	2,017	1,386	1,953	1,450
平成9	1997	289	2,903	2,003	900	1,658	1,245	1,070	1,833
平成8	1996	290	2,346	1,066	1,280	1,406	940	1,131	1,215
平成7	1995	278	3,778	2,460	1,318	2,180	1,598	1,523	2,255
平成6	1994	268	3,779	2,607	1,112	2,190	1,589	1,702	2,077
平成5	1993	271	3,357	1,877	1,480	2,072	1,285	1,378	1,979
平成4	1992	266	4,664	2,625	2,039	2,623	2,041	2,428	2,236
平成3	1991	287	4,758	2,245	2,513	2,457	2,301	2,492	2,266
平成2	1990	282	6,519	3,778	2,741	3,487	3,032	3,153	3,366
平成元	1989	266	5,597	3,509	2,088	2,748	2,849	2,943	2,654
昭和63	1988	279	6,535	3,039	3,496	3,482	3,053	4,452	2,083
昭和62	1987	268	6,591	2,548	4,043	3,558	3,033	4,704	1,887
昭和61	1986	279	7,935	3,306	4,629	4,064	3,871	6,096	1,839
昭和60	1985	113	3,179	1,827	1,352	1,993	1,186	2,602	577



## (7) 町内外者の入館割合

開館当初は町内の入館者は8割を超えていたが、開館4年後の平成時代に入ると、5割代となる。平成20年以降は4割代となり、現在は町外からの見学者の方が多く、6割前後の状況である。

## (8) 運営方針と体制

①運営方式一町直営

②運営体制一町職員(学芸員2名) ※土、日は業務委託

(教育課文化振興係一文化財保護業務、博物館運営管理業務)

③協議会一博物館運営協議会(定数は6名以内、学識経験者4人、社会教育関係者1名、学校教育関係者1名)

## (9) 博物館の事業

年度	資料整理	調査研究	教育普及		整備事業	刊行物	体制
			展示	講演会・講座			
昭和61年 (1986)	・台帳作成(原田家文書、鉄道資料、伊藤家資料)	・殿原古墳、小牧西牟田横穴調査 ・町内三十六歌仙絵馬確認調査 ・伊藤家資料調査	・特別展「伊藤常足」 (11月1日～11月30日) ・安城古墳群コーナー (8月1日～10月20日) ・いろりの間(四季ごじて展示)	・文化史講座(9回) (9月～11月) ・7月七夕祭り ・3月女の子の遊び ・11月 歴史散歩「伊藤常足の生家を訪ねて」	・国鉄車輛(6輛)展示場設置	・ふるさと鞍手創刊号(昭和6年度) ・ふるさと鞍手第2～4号 ・特別展国学者伊藤常足図録	嘱託1 臨時2
昭和62年 (1987)	・大工道具の台帳、カード作成、職人の道具の整理分類、教科書関係資料台帳作成	・長谷寺遺跡発掘調査 ・イヨ谷遺跡事前調査	・企画展「大工道具 職人の知恵と技」 (8月11日～9月30日) ・企画展「学校の歴史」 (3月22日～4月16日)	・筑前の国学(4回)、 ・中世の北九州(5回) (9月24日～11月20日) ・7月 竹馬作り ・7月 七夕祭り ・11月 風作り	・埋蔵文化財収蔵庫・新築工事(国補事業) ・国鉄車輛(説明板設置)	・ふるさと鞍手第5～8号	正1 臨時2
昭和63年 (1988)	・旧鞍手分校保管民俗資料洗浄作業、資料整理及び台帳整備、戦時関係資料台帳整備	・ゴルフ場建設予定地の遺跡分布調査及び確認調査 ・諸職、民俗行事(祭り等)、戦時中の暮らしについて聞き取り調査、 ・仏教関係(仏像、寺院)資料調査	・昭和62年度埋蔵文化財出土品展 ・企画展「戦争中の庶民の暮らし」 (12月8日～2月28日)	・「道具が語る戦時中の庶民の暮らし」兵士と庶民の戦争歴史館 ・武富登巳男映写会「子供達の昭和史」「お母さんの木」 ・5月 竹馬作り ・7月 七夕祭り ・8月 夏休み子供歴史講座 ・10月 かかし作り	・長谷観音収蔵庫新設(国補事業) (国補事業)(塗装) ・資料館、埋蔵文化財収蔵庫燻蒸 ・石炭資料展示場展示計画	・ふるさと鞍手第9～12号	正1 嘱託2
平成元年 (1989)	・民俗、石炭資料整理及び台帳整備 ・仏教関係(仏像、寺塔資料整理及び台帳整備)	・ゴルフ場建設予定地の遺跡分布調査及び確認調査 ・諸職、民俗行事(祭り等) ・仏教関係(仏像、寺院)資料調査	・特別展「鞍手のほとけたち」 (9月9日～10月10日)	・「北部九州の仏教美術」 ・北九州大学 錦織亮介教授 ・5月 竹馬作り ・8月 夏休み子供歴史講座 ・11月 かかし作り	・石炭資料展示場開設(3月31日) ・古月横穴(用地買収)(国補事業)	・ふるさと鞍手第13号 ・特別展「鞍手のほとけたち」 ・鞍手町石炭資料展示場シムレット	正1 嘱託2 臨時2
平成2年 (1990)	・伊藤家文書整理	・八尋遺跡群確認調査 100ha及び発掘調査		・いろりばたお話の会 (毎月第3土曜日) ・夏休み子供歴史講座(8月)	・古月横穴(用地買収)(国補事業)	・ふるさと鞍手第14～16号	正1 嘱託2 臨時2
平成3年 (1991)	・伊藤家文書マイクロフィルム作成	・八尋遺跡群発掘調査、 中畑遺跡発掘調査、 剣岳発掘調査 ・民俗資料調査(町内絵馬の調査、伊藤家文書の調査)		・いろりばたお話の会 (毎月第3土曜日)	・石炭資料展示場備工事 ・発掘出土遺物倉庫設置工事 ・埋蔵文化財収蔵庫リフト設置工事、資料館展示場燻蒸	・ふるさと鞍手第17号 ・鞍手町歴史民俗資料館展示解説図録	正1 嘱託1 臨時3
平成4年 (1992)	・伊藤家文書マイクロフィルム作成 ・民俗資料整理(大工道具等職人の道具資料)	・埋蔵文化財発掘調査(イヨ谷遺跡、中畑遺跡、剣岳城) ・民俗資料調査(大工道具等職人の道具調査、伊藤家文書の調査)	・イヨ谷遺跡出土品展示 (12月14日～1月17日) ・企画展「職人のわざ」 (10月11日～12月13日) ・人生儀礼コーナー設置	・いろりばたお話の会 (毎月第2土曜日)	・伊藤常足旧宅解説板設置	・ふるさと鞍手第18号 ・企画展企画展パンフレット「職人のわざ」 ・鞍手町探訪第1集「史跡・伝統芸能編」	正2 嘱託2 臨時1
平成5年 (1993)	・伊藤家文書マイクロフィルム作成	・新延貝塚発掘調査、古月貝塚発掘調査、古門松ヶ元古墳発掘調査 ・出土遺物整理(八尋遺跡群、中畑遺跡岩河内遺跡、新延貝塚) ・炭坑関係資料調査	・新延貝塚発掘調査、古月貝塚発掘調査、古門松ヶ元古墳発掘調査 ・八尋遺跡群、中畑遺跡岩河内遺跡、新延貝塚 ・民俗資料調査 ・炭坑関係資料調査	・講演 鎌田慧「上野英信と記録文学」公演劇団やしゃぶし 演劇「穴」 ・いろりばたお話の会 (毎月第2土曜日)	・古月横穴整備事業計画案立案 ・イヨ谷遺跡整備事業(レプリカ作製)	・ふるさと鞍手第19号 ・特別展パンフレット「ヤマの記録者たち」	正2 嘱託2 臨時1

年度	資料整理	調査研究	教育普及		整備事業	刊行物	体制
			展示	講演会・講座			
平成6年 (1994)	・伊藤家文書マイクロフィルム作成 ・伊藤家家事雑記(安政年間)読み下し作業	・埋蔵文化財調査(向山遺跡第1地区古月横穴範囲確認調査及び整理作業、松ヶ元古墳群整理作業及び報告書作成 ・岩河内遺跡整理作業及び報告書作成 ・剣岳城整理作業 ・古月貝塚整理作業 ・民俗資料調査 ・芸能資料調査	・企画展「懐かしの大道芸」(10月8日～11月19日)	・古門向山遺跡、古月横穴掘調査説明会(3月11日) ・いろいろばたお話の会(毎月第2土曜日)	・古月横穴保存修理事業(国補事業) ・伊藤家足旧宅整備	・ふるさと鞍手第20～21号 ・伊藤家家事雑記(安政年間) ・企画展「懐かしの大道芸」	正2 嘱託2 臨時1
平成7年 (1995)	・伊藤家文書マイクロフィルム作成 ・伊藤家家事雑記(嘉永年間)読み下し作業	・埋蔵文化財調査(向山遺跡第2地区) ・古月横穴埋蔵文化財発掘調査及び整理作業 ・民俗資料調査 ・特別展開係資料調査向山遺跡第3地区	・野の花写真展「野山の小さな天使(はな)たち」(8月1日～8月31日) ・企画展「伊藤家足旧宅県指定記念展」(9月9日～10月22日)	・講演会「伊藤家足旧宅県指定記念講演会」8月10日 ・いろいろばたお話の会(毎月第2土曜日) ・青空の会(年間10回)	・古月横穴保存修理事業(国補事業)	・ふるさと鞍手第22号 ・「鞍手町探訪ビデオ」第1巻制作伊藤家家事雑記(嘉永年間)資料館リーフレット	正2 嘱託2 臨時1
平成8年 (1996)	・伊藤家文書マイクロフィルム作成 ・伊藤家家事雑記(弘化年間)読み下し作業	・古月横穴埋蔵文化財発掘調査及び整理作業 ・天然記念物調査 ・町内樹木調査(上月月貴船神社 イチョウ 剣神社 バクチノキ 古物神社ヤマモモの木)	・企画展「きのご物語」(10月6日～12月28日)	・いろいろばたお話の会(毎月第2土曜日) ・青空の会(年間10回)	・古月横穴保存修理事業 ・新延大塚古墳保存修理 ・伊藤家足旧宅整備	・ふるさと鞍手第23～24号 ・「鞍手町探訪ビデオ」第2巻制作伊藤家家事雑記(弘化年間)	正2 嘱託2 臨時1
平成9年 (1997)	・伊藤家文書マイクロフィルム作成 ・伊藤家家事雑記(安政年間)読み下し	・古門遺跡埋蔵文化財発掘調査及び資料整理 ・古月横穴埋蔵文化財発掘調査及び整理作業	・特設コーナー昆虫の生態写真展(6月21日～8月31日) ・企画展「炭鉱の労働と暮らし」展(9月13日～12月26日)	・いろいろばたお話の会 ・青空の会	・古月横穴保存修理基本構想設計	・伊藤家家事雑記天保10年～14年印刷製本	正2 嘱託2 臨時1
平成10年 (1998)	・伊藤家家事雑記(天保2年～9年)読み下し作業	・十六神社のクスノキ調査 ・古門遺跡埋蔵文化財発掘調査及び資料整理 ・古月横穴埋蔵文化財発掘調査及び資料整理	・企画展「鳥・花・虫たちとの素敵な出会い」 ・企画展「木綿の一生」	・講義:福岡県高齢者リーダー育成大学 ・いろいろばたお話の会 ・青空の会	・古月横穴実施設計	・ふるさと鞍手第26号～27号	正2 嘱託2 臨時1
平成11年 (1999)	・伊藤家文書目録	・古門遺跡出土品整理及び報告書作成 ・古月横穴発掘調査及び出土品整理 ・新延野田横穴墓群発掘調査	・企画展「見に来んね里山の鳥たちを」(7月24日～8月22日) ・企画展「伊藤家家事雑記—伊藤家足をめぐる人々—」(10月9日～11月20日)	・企画展「見に来んね里山の鳥たちを」記念講演会「里山の鳥たちを」(7月24日) ・企画展「見に来んね里山の鳥たちを」記念講座「鳥のはがき絵教室」(7月25日) ・企画展「伊藤家家事雑記—伊藤家足をめぐる人々—」 ・記念座談会「伊藤家足を語る」(11月6日)	・古月横穴保存修理事業 ・十六神社のクスノキ保護事業 ・福岡県教育文化助成事業 ・永谷万年願盆綱引き ・木月神社遷宮行列	・ふるさと鞍手第28号～29号 ・伊藤家家事雑記	正2 嘱託2 臨時1
平成12年 (2000)	・伊藤家文書目録整理及び印刷 ・伊藤家文書目録データベース化 ・伊藤家家事雑記データベース化	・新延野田横穴墓群発掘調査及び出土品整理	・企画展「鞍手発掘—古門遺跡群調査成果より」(8月5日～10月1日) ・企画展「暮らしを結ぶ道」(10月7日～11月18日)	・企画展記念講演会「秀吉の歩いた道—鞍手の太閤道」(11月5日) ・いろいろばたお話の会 ・青空の会	・古月横穴保存修理事業	・ふるさと鞍手第30号～31号	正2 嘱託2 臨時1
平成13年 (2001)	・伊藤家文書読み下し作業	・民俗資料調査 ・数住家資料調査 ・六嶽神楽調査	・企画展「鞍手発掘—新延野田遺跡群調査成果より」(3月9日～3月31日)	・いろいろばたお話の会 ・青空の会	・石炭資料展示場修理 ・古月横穴保存修理事業	・ふるさと鞍手第31号～33号	正2 嘱託1 臨時1
平成14年 (2002)	・伊藤家文書読み下し作業 ・古月横穴埋蔵文化財発掘調査及び資料整理	・民俗資料調査 ・数住家資料調査 ・六嶽神楽調査 ・殖生神社(中間市)太祖神社(篠栗町)春日神社(田川市)	・企画展「古代人と現代人の技くらべ—土器勾玉の製作技法を学ぶ—」 ・企画展「暮らしの歳時記」 ・学校連携事業 ①地域学習授業支援 ②資料館資料貸出事業	・いろいろばたお話の会 ・青空の会	・石炭資料展示場壁面修理事業 ・生物被害防止作業 ・収蔵庫シロアリ駆除 ・民謡CD化事業 ・古月横穴保存修理事業	・ふるさと鞍手第34号～35号	正2 嘱託1 臨時1
平成15年 (2003)	・伊藤家文書読み下し作業	・神楽調査 ・町内盆踊り調査 ・語りつく戦争コーナー聞き取り調査	・企画展「渡り鳥」(8月1日～8月31日) ・企画展「六嶽神楽」(10月25日～12月7日) ・学校連携事業 ①地域学習授業支援 ②資料館資料貸出事業	・いろいろばたお話の会 ・青空の会	・石炭資料展示場監視カメラ及びインターホン整備 ・生物被害防止作業 ・収蔵庫シロアリ駆除 ・鞍手町民謡CD—盆踊り編—販売開始 ・旧国鉄展示車輛撤去作業	・ふるさと鞍手第36号～37号	正2 嘱託1 臨時1
平成16年 (2004)	・伊藤家文書読み下し作業 ・町内出土鉄器関係資料整理	・民俗調査 ・民俗行事映像収録	・特別展「古代へのタイムトンネル—古月横穴が語る鞍手の古代史」(10月30日～11月28日) ・博物館実習生受け入れ ・10年経験者研修 ・古月横穴史跡ボランティア設立	・いろいろばたお話の会 ・歴史体験講座	・生物被害防止作業 ・埋蔵文化財収蔵庫イエロビートル駆除 ・古月横穴駐車場設置 ・国指定重要文化財木造不動明王及二童子像収蔵庫屋根修理、解説板新設	・ふるさと鞍手第38号～39号	正2 嘱託1 臨時1

年度	資料整理	調査研究	教育普及		整備事業	刊行物	体制
			展示	講演会・講座			
平成 17 年 (2005)	・伊藤家文書読み下し作業 ・町内出土鉄器関係資料整理	・遺跡分布地図作成	・企画展「鞍手の歴史と文化を訪ねる」(10月7日～11月9日) ・博物館実習生受け入れ ・歴史ボランティア設立	・いろいろばたお話の会 ・青空の会	・生物被害防止作業 イエヒ白蟻駆除 ・古月横穴福岡西方沖地震被害修理 ・指定文化財携帯板新設	・ふるさと鞍手第40号 ・資料館パンフレット ・石炭資料展示場パンフレット	正2 臨時1
平成 18 年 (2006)	・伊藤家文書読み下し作業 ・考古資料の整理 ・出土遺物台帳作成	・町内開発に伴う文化財有無の事前審査 ・埋蔵文化財遺跡分布地図作成	・企画展「藩音機が奏でる昭和の響」(8月4日～9月3日) ・企画展「昭和の子どもたち—昭和30年代～50年代—」(10月6日～11月26日) ・地域学習授業支援	・いろいろばたお話の会 ・青空の会	・生物被害防止作業 ・セントリコンシステム委託	・ふるさと鞍手第41号 ・企画展図録「昭和の子どもたち」	正2 臨時1
平成 19 年 (2007)	・伊藤家文書読み下し作業 ・考古資料整理 ・民俗資料整理 ・出土遺物台帳作成	・町内開発に伴う文化財有無の事前審査 ・埋蔵文化財遺跡分布地図作成 ・筑豊インター関連取り付け道路埋蔵文化財確認調査	・企画展「伊藤華南展」(9月29日～11月4日) ・博物館実習生受け入れ ・高校生就労体験受け入れ ・学校連携事業	・いろいろばたお話の会 ・青空の会	・生物被害防止作業 ・セントリコンシステム委託 ・石炭資料展示場監視カメラ交換	・ふるさと鞍手第42号	正2 臨時1
平成 20 年 (2008)	・民俗資料整理 ・考古資料整理	・産育民俗資料調査 ・遠賀川流域の学校所蔵文化財資料調査 ・町内開発に伴う文化財有無の事前審査 ・埋蔵文化財遺跡分布地図作成 ・筑豊インター関連取り付け道路埋蔵文化財確認調査 ・民俗文化財調査 ・天然記念物調査 ・伊藤家資料調査	・企画展「僕らが掘った筑豊—昭和の遠賀川流域考古学」(10月11日～11月30日) ・学校連携事業 ①地域学習授業支援・出前授業・子ども学芸員事業 ②資料館資料貸出事業	・いろいろばたお話の会 ・青空の会	・生物被害防止作業 ・セントリコンシステム委託	・ふるさと鞍手第43号	正2 臨時1
平成 21 年 (2009)	・寄贈資料整理 ・遺跡調査データの整理 ・金川家資料の整理	・鞍手地域炭鉱関連資料調査	・企画展「赤ちゃんいま、むかし」 ・学校連携事業 ①地域学習授業支援 出前授業 子ども学芸員事業 ②資料館資料貸出事業	・いろいろばたお話の会 ・青空の会	・生物被害防止作業 ・セントリコンシステム委託	・ふるさと鞍手第44号 ・資料館パンフレット ・石炭資料展示場パンフレット	正2 臨時1
平成 22 年 (2010)	・寄贈資料整理 ・遺跡調査データの整理 ・金川家資料の整理 ・埋蔵文化財事前審査(GISデータ入力)	・鞍手地域炭鉱関連資料調査	・企画展「鞍手石炭ものがたり」 ・学校連携事業 ①地域学習授業支援 出前授業 子ども学芸員事業 ②資料館資料貸出事業	・いろいろばたお話の会 ・青空の会	・生物被害防止作業 ・セントリコンシステム委託 ・石炭資料展示場シロアリ駆除委託 ・石炭資料展示場雨漏り修繕工事 ・町指定文化財長谷の三尊輪解板設置 ・古月横穴除草作業 ・新延本村盆踊DVD制作協力	・ふるさと鞍手第45号	正2
平成 23 年 (2011)	・寄贈資料整理 ・遺跡調査データの整理 ・金川家資料・田部家資料の整理 ・埋蔵文化財事前審査(GISデータ入力)	・企画展に向けての調査	・企画展「絵本の歩みと子どもたち」(10月2日～11月27日) ・博物館実習生の受け入れ	・いろいろばたお話の会	・生物被害防止作業 ①展示室、収蔵庫の清掃作業 ②収蔵品、寄贈資料の洗浄 ・セントリコンシステム委託(シロアリ被害予防) ・石炭資料展示場フェンス修繕工事 ・登録博物館の登録 ・木月神社遷宮行列提灯(31点)購入事業 ・文化芸術振興費補助金—ミュージアム活性化支援事業 ・地域文化記録活用事業 ・新規利用者創出事業	・ふるさと鞍手第46号	正2
平成 24 年 (2012)	・寄贈資料整理 ・金川家資料整理	・企画展に向けての調査	・企画展「発掘から想像するビックリ縄文時代」展(10月27日～12月9日) ・学校連携事業 ①地域学習授業支援 子ども学芸員(鞍手町内全小学校) ②資料館資料貸出し事業 ③博物館ボランティア活動	・「いろいろばたでむかしむかし」昔ばなし講演会 ・いろいろばたお話の会 ・縄文人を想像しよう ・縄文人を体験しよう ・しめ縄作り	・生物被害防止作業 ①展示室、収蔵庫の清掃作業 ②収蔵品、寄贈資料の洗浄 ・セントリコンシステム委託(シロアリ被害予防) ・博物館ロビー天井・壁張替修繕工事	・ふるさと鞍手第47号 ・企画展パンフレット「発掘から想像するビックリ縄文時代」	正2
平成 25 年 (2013)	・寄贈資料の整理 ・考古民俗資料の整理 ・金川家資料・田部家資料の整理 ・町内古文書資料の解説	・埋蔵文化財試掘調査 準備7月分布調査、11月伐木工事、12月試掘調査 ・八剣神社道中楽謡調査 ・永谷万年願盆綱引き記録調査	・企画展「写真で語る野鳥歳時記」展(8月1日(木)～8月31日(土)) ・企画展「グリム童話の風景」(平成25年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館)	・子どもミュージアムスタート(毎月第2土曜日開催) ・「いろいろばたでむかしむかし2」昔ばなし講座(博物館)(10月12日) ・平成25年度文化庁地域と	・生物被害防止作業 ①展示室、収蔵庫の清掃作業 ②収蔵品、寄贈資料の洗浄 ・セントリコンシステム委託	・ふるさと鞍手第48号 ・企画展パンフレット(平成25年度文化庁地域と共働)	正2 臨時1



年度	資料整理	調査研究	教育普及		整備事業	刊行物	体制
			展示	講演会・講座			
			館活動支援事業 (9月1日～10月20日) ・企画展「炭坑の仕事」(平成25年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館活動支援事業) (11月1日～12月8日)	共働した美術館・歴史博物館活動支援事業 ・「炭坑の跡地を訪ねて」フィールドワーク(11月16日) ・しめ縄つくり講座(博物館)(12月14日)	テム委託(シロアリ被害予防) ・伊藤家旧宅シロアリ駆除(平成25年度県費補助金)	した美術館・歴史博物館活動支援事業) ・石炭展示場パンフレット	
平成26年 (2014)	・寄贈資料の整理 ・考古民俗資料の整理 ・金川家資料・田部家資料の整理 ・町内古文書資料の解説	・埋蔵文化財保護事業 ・開発事前審査	・企画展「ふるさと鞍手のコケ散歩」展(9月28日～11月23日)(平成26年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館活動支援事業) ・学校連携事業 ①地域学習授業支援 ②博物館資料貸し出し事業	・子どもミュージアムスタート(第2土曜日9回開催) ・昔ばなし講座「いろりばたでむかしむかし」(6月14日・9月13日) ・しめ縄つくり講座(12月13日)	・生物被害防止作業 ①展示室、収蔵庫の清掃作業 ②収蔵品、寄贈資料の洗浄 ・セントリコンシステム委託(シロアリ被害予防)	・ふるさと鞍手第49号 ・歴史民俗博物館パンフレット(常設展示)	正2 嘱託1
平成27年 (2015)	・寄贈資料の整理 ・考古民俗資料の整理 ・金川家資料・田部家資料の整理 ・町内古文書資料の解説 ・伊藤家資料の保護作業(中性薄葉紙による梱包)	・埋蔵文化財保護事業 ・開発事前審査 ・町内ヒメホタル生息地調査	・企画展「昭和 あの頃の頃」展(10月10日～12月6日) ・学校連携事業 ①地域学習授業支援 ②博物館資料貸し出し事業	・昔ばなし講座「いろりばたでむかしむかし」(6月13日・11月14日) ・コケ玉作り講座(12月5日)	・生物被害防止作業 ①展示室、収蔵庫の清掃作業 ②収蔵品、寄贈資料の洗浄 ・セントリコンシステム委託(シロアリ被害予防) ・伊藤家旧宅整備事業 ・古月横六整備事業	・ふるさと鞍手第50号 ・昔話テーマにしたパンフレット「ようこそ昔話の世界へ」	正1 嘱託1
平成28年 (2016)	・寄贈資料の整理 ・考古民俗資料の整理 ・町内古文書資料の解説	・埋蔵文化財保護事業 ・開発事前審査	・企画展「カムイのいる大地ーアイヌ民族の歴史と文化」(10月8日～12月10日) ・学校連携事業 ①地域学習授業支援 子ども学芸員事業6校 小学校出前事業 ②博物館資料貸し出し事業	・アイヌ文化伝承者さんによるアイヌ文様の刺しゅう教室(12月9日午前・午後2回開催) ・アイヌ文化伝承者さんによるアイヌのお話会(12月10日)	・生物被害防止作業 ①展示室、収蔵庫の清掃作業 ②収蔵品、寄贈資料の洗浄 ・セントリコンシステム委託(シロアリ被害予防) ・博物館改修工事 ・屋根・玄関・ロビーの改修 ・展示室のLED化	・ふるさと鞍手第51号 ・企画展パンフレット「カムイのいる大地ーアイヌ民族の歴史と文化」 ・企画展リーフレット(展示品目録)	正3
平成29年 (2017)	・寄贈資料の整理 ・考古民俗資料の整理 ・町内古文書資料の解説	・埋蔵文化財保護事業 ・開発事前審査	・企画展「うけつがれる猿舞の芸-筑豊大介の仕事」(10月8日～12月3日)	・昔話の語りの会「いろりばたでむかしむかし…」(6月10日) ・企画展関連イベント「伝統の猿まわし実演」(11月4日午前11時・午後3時の2回開催) ・炭坑勉強会(講師栗田徳氏)(5月27日、7月29日、10月22日、1月28日)	・生物被害防止作業 ①展示室、収蔵庫の清掃作業 ②収蔵品、寄贈資料の洗浄 ・セントリコンシステム委託(シロアリ被害予防)	・ふるさと鞍手第52号 ・企画展パンフレット「うけつがれる猿舞の芸-筑豊大介の仕事」	正2
平成30年 (2018)	・寄贈資料の整理 ・考古民俗資料の整理 ・町内古文書資料の解説	・埋蔵文化財保護事業 ・開発事前審査	・企画展「詩人・アーティスト 詩太の作品展-栞」(6月23日～7月1日) ・鞍手中学校生徒職場体験(博物館作業) ・竜徳高校職場体験(遺跡見学)	・昔話の語りの会「いろりばたでむかしむかし…」 ・講師ストーリーテリングの会「赤ずきん」 ・炭坑勉強会(講師栗田徳氏)	・生物被害防止作業 ①展示室、収蔵庫の清掃作業 ②収蔵品、寄贈資料の洗浄 ・セントリコンシステム委託(シロアリ被害予防) ・古月横六整備事業 ・伊藤常足旧宅整備事業 ・木月神社運営行列用具の整備 ・高木薬師屋根修繕	・ふるさと鞍手第53号	正2
平成31年 令和元年 (2019)	・寄贈資料の整理 ・考古民俗資料の整理 ・町内古文書資料の解説	・埋蔵文化財保護事業 ・開発事前審査	・企画展「国指定史跡古月横穴 史跡の保存と整備」(10月5日～12月8日) ・世界遺産「丸見」見学者18名(8月8日～9月1日) ・世界遺産室久野隆志氏によるパネル展解説(9月1日) ・学校連携事業 ①地域学習授業支援 子ども学芸員事業(町の歴史・勾玉作り・火おこし・土器作り・遺跡見学) 小学校出前事業 ②博物館資料貸し出し事業	・昔話の語りの会「いろりばたでむかしむかし…」(6月15日) ・炭坑勉強会(講師栗田徳氏)	・生物被害防止作業 ①展示室、収蔵庫の清掃作業 ②収蔵品、寄贈資料の洗浄 ・セントリコンシステム委託(シロアリ被害予防) ・ボランティア視察研修(11月22日) ・伊藤常足旧宅整備事業 ・木月神社運営行列用具の整備	・ふるさと鞍手第54号 ・鞍手町内文化財マップ	正2

## 2. 博物館の課題

---

### (1) 施設の課題

- ・石炭資料展示場は、老朽化による、天井部及び北側壁部の連結部の劣化が進み、雨漏りが著しいため、一部木材の腐食が進んでいる。また、シロアリの被害により、一部木部を撤去、または補修した経緯があることから、今後も同様の被害が想定できる。
- ・収蔵庫の空調管理及び害虫対策について、日常的に適切な管理が必要であり、随時もしくは定期的な対応が必要である。
- ・資料の受け入れ時に、受け入れ資料の保全のため、資料の荷解き室及び養生空間が必要である。

### (2) 展示機能に関する課題

- ・石炭資料展示場内の自動解説機には不具合があり、音声聞き取りにくい状況のため、自動解説機による資料解説ができていない。
- ・石炭資料展示場は職員が不在のため、防犯カメラを設置しているが、老朽化のため、録画機能が作動できていない。
- ・石炭資料展示場の採炭現場の通路には、急な傾斜のスロープがあり、見学通路に工夫が必要である。

### (3) 資料の保管・整理に関する課題

- ・収蔵庫内は資料別に湿度管理をすべきであるが、現状では特別収蔵庫が2部屋しかなく資料別の保存管理は困難である。
- ・資料整理については、資料のクリーニングと合わせ、資料のナンバーリング、基本情報資料保管場所等の資料整理に関する再整理の必要性がある。
- ・資料の整理場所については、スペース不足のため確保できていないので十分なスペースが必要である。
- ・資料は台帳とカードを連携させたデータとして整理する必要がある。

### (4) 事業に関する課題

- ・博物館事業  
企画展の入館者を増やすため、講座や講演会など博物館が発信するイベントを多く実施する必要がある。
- ・教育普及事業  
子ども学芸員事業で小学校との連携事業を行っているが、現在は6年生のみが対象になっているため、他の学年にはできていない。  
鞍手中学校との連携ができていない。
- ・埋蔵文化財整備事業  
指定文化財の保存整備に時間を要する。  
自然災害等による崩壊の対処を明確に決めておく必要がある。

### 3. 基本構想の策定にあたって

博物館は昭和 60（1985）年の開館以来、「鞍手町の歴史と文化を後世に伝える」を基本テーマとして、考古、歴史、民俗、石炭のコーナーを設け、活動を行ってきた。その間、博物館はその機能を活かし、資料の収集保管、資料の調査研究、展示活動や講座の開催などの教育普及を実践してきた。特に地域の子どもたちを対象とした親子教室や古文書学習会、炭鉱勉強会には、さまざまな方々が参加し、鞍手地域を学ぶ場として好評を得ている。毎年テーマを決めて開催する企画展には町内外から見学者が来館する。また町内 6 小学校と連携して行っている「子ども学芸員」事業は、町に住む子どもたちに対し、地域学習支援の礎となっている。

昭和 63（1988）年に設置された埋蔵文化財収蔵庫は町内に眠る多くの資料を保存保管するため、建設されたもので、町の歴史を継承する施設として重要な役割を担っている。

平成 2（1990）年に開館した石炭資料展示場は、明治時代以降、鞍手町の基幹産業として盛行し、現在の町の基盤を築いた石炭産業の歴史と文化を後世に伝えるために開設されたものである。

今回、庁舎建設のため、石炭資料展示場及び埋蔵文化財収蔵庫の解体・移設にあたり、議会の承認を得て、石炭資料展示場と埋蔵文化財収蔵庫を（仮称）博物館別館として本館に隣接した場所に建設する運びとなった。

埋蔵文化財収蔵庫には町民から寄贈された多くの生活用品、産業関係の道具、古文書、遺跡から出土した資料、炭坑関係資料、写真資料など「町の宝」が保存されることになる。

石炭資料展示場はこれまでの体感型の展示のコンセプトを踏まえ、坑内の様子をよりリアルに表現し、充実した構成を目指す。

今後、当館は文化体育総合施設、くらて病院、庁舎が一体となったエリア内に配置されることで、これまで以上に歴史や文化継承の拠点となることが期待される。

このように、博物館に対する使命と役割を実現するために、鞍手町独自の歴史民俗博物館の整備の構想を策定し、新設する（仮称）博物館別館との関わりも含めた基本構想を策定するものである。

#### 《博物館にもとめられるもの》

##### ①展示施設

1. 考古資料の公開と活用
2. 民俗資料の公開と活用
3. 炭坑資料の公開と活用

##### ②収蔵施設

1. 資料を受け入れ、仮収蔵する空間
2. 資料を整理する空間
3. 資料を保存管理する空間
4. 資料を調査する空間

##### ③埋蔵文化財収蔵庫

1. 考古資料を保存・管理する空間
2. 考古資料を整理する空間
3. 考古資料を調査・研究する空間



## 4. 博物館の活動方針

### (1) 鞍手町が目指す博物館像

#### ①ビジョン

鞍手町の歴史・文化を後世に伝えていくため、考古・歴史コーナーでは、過去の調査から得られた情報を町民にわかりやすく伝え、民俗コーナーには、むかしのくらしを再現した部屋を設けることで、目で見て楽しめるコーナーにする。石炭資料展示では実際に炭坑に入ったような構造にすることで、普段味わえない世界を体感してもらう。このように「観る、触れる、体感する」をテーマとした博物館にすることで、歴史や昔のくらし、炭鉱の町として栄えた鞍手町を学ぶことができる唯一の施設として確立していくことを目指す。

#### 観る

- ・展示物や再現模型を間近で観る



#### 触れる

- ・資料に触れるコーナーを作る  
※箱に手を入れて触れてもらう



#### 体感する

- ・展示場を坑道として再現  
※写真は旧石炭資料展示場

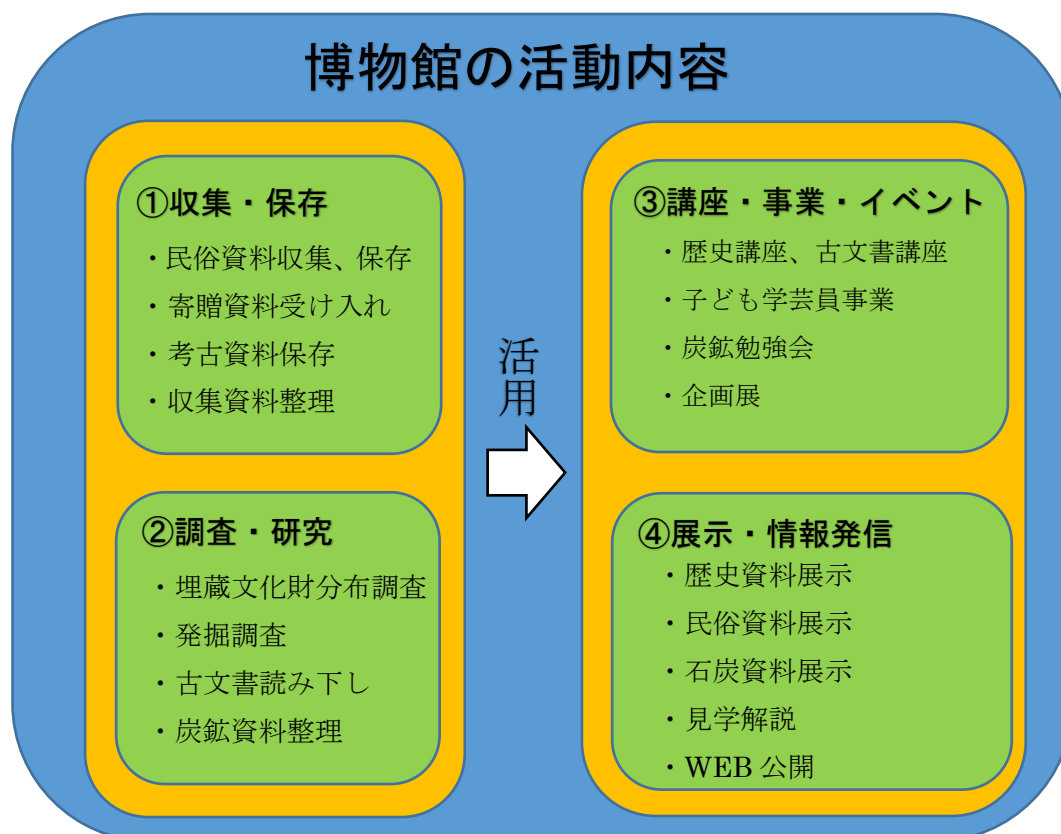


- #### ②使命
- ・鞍手町の歴史を後世に残すため、資料を収集し、調査研究、保存、情報発信を行う。
  - ・博物館を通して地域の歴史を学び、郷土への関心を高める。
  - ・講座やイベントを通して地域の方の交流の場を作り、地域の活性化へつなげる。

## 基本理念

# 「観る・触れる・体感する博物館」

## (2) 博物館が目指す活動内容



### ①収集・保存

- ・ 保存の必要な民俗資料・考古資料を収集し、保存する。民俗資料は主に地域の方より寄贈される。そういった資料の受け入れ窓口となり、貴重な資料を残していく。

### ②調査・研究

- ・ 収集した資料を活用できるよう整理と詳細の記録を行う。
- ・ 埋蔵文化財包蔵地を把握し、必要な場合、試掘調査、発掘調査を行う。
- ・ 古文書の読み下しを行い、活用できるよう準備を行う。

### ③講座・イベント・事業

- ・ 近隣市町村から講師を招き、鞍手だけでない近隣との歴史のつながりを学ぶ(年 10 回程度)。
- ・ 子ども学芸員事業(歴史の話講話、体験学習)での小学校との連携を行い、郷土愛を育む。
- ・ 鞍手中学校の実習棟(埋蔵文化財収蔵庫)を拠点として鞍手中学校歴史部を作り、小学校の子ども学芸員事業で歴史に興味を持った子どもたちに学べる場を提供する。
- ・ 炭鉱勉強会を行い、炭鉱について学ぶ機会を増やす。
- ・ 調査研究の活用として、企画展を定期的に行い、鞍手町民に向けたイベントを行う。

#### ④展示・情報発信

- ・歴史資料展示

鞍手町の歴史を縄文時代から昭和時代までわかりやすく展示する。今後は平成や、令和のコーナーなどを設け過去から現在までを、その時代の実物を展示するなどして紹介する。発掘調査体験のコーナーを作り、調査の面白さや、博物館の行ってきた事業の活動周知の場を設ける。

- ・民俗資料展示

鞍手のむかしのくらしを絵画で紹介し、再現コーナーを設け、手に取れるくらい近くで観られる展示を行う。小学生の学習と連動した昔の道具の紹介を行い、見学の際解説を行う。昔の遊びコーナーを設け体験できる場所を設ける。

- ・石炭資料展示

体感型展示場として石炭資料展示場を位置付け、坑道の内部を再現し、炭鉱の世界を体感してもらおう。希望の場合、解説を行い、小学校見学時などは案内を行う。

- ・見学解説

小学校からの見学依頼や、他市町村からの見学依頼を受け、町内外へ積極的に情報発信する。

- ・WEB公開

ホームページの開設、その他SNSを使用し、博物館の活動や資料の公開を行う。



## 5. (仮称)博物館別館の目指す整備の概要

テーマ：収 蔵 庫：既存の資料と今後受け入れる資料の保管・保存を十分に行えるよう収蔵機能を充実させる。

石炭資料展示場：これまでになかった体感型に特化した炭鉱を学べる場を整備する。

### (1) 整備の方針

#### ①(仮称)博物館別館の新設

##### ア. 収蔵施設

- ・資料の受け入れ、整理が適切にできる施設の環境を整える。
- ・資料の特性に応じた保管環境を整える。
- ・保管資料が台帳カードでデータ化され、資料が活用しやすい環境を構築する。
- ・本館収蔵スペース確保のため、収蔵棚の高層化などの工夫を施す。

##### イ. 石炭資料展示場

- ・展示手法 石炭の歴史から鞍手の炭鉱の変遷や炭鉱の暮らしなど、写真等を用いたわかりやすい展示及び解説を行う。
- ・見学手法 展示解説や模型を見学するだけでなく、通路を坑道として再現し、坑道内部へ入ったように見せる。また、実際に使われた道具に、直接触れたり持ち上げたりすることができるコーナーを作り、坑道内部のリアルな音を再現することで、リアルな炭鉱を体感してもらう。大手炭鉱と中小炭鉱をどちらも再現し、かつ体感できる展示場を作る。

《例》 明るさ体感：炭坑に入ったような感覚にさせるために、照明を暗くし、キャップランプで見学を行う

音体感：削岩機・ベルトコンベアの稼働音を展示場内に流す。

重さ体感：削岩機・かるいてば(掘った石炭を背負うもの)・すら(掘った石炭を入れる木箱)などの道具を実際に引いたり、持ったりする。

広さ体感：小ヤマの坑道の大きさを再現した模型に入る。

石炭体感：採掘した石炭に触れる。

##### ・情報発信手法

###### 展示コーナーの設置

- 中小炭坑(いわゆる小ヤマ)のコーナー
- 機械化された炭鉱のコーナー
- 炭坑関係の文書及び絵画及び資料を展示するコーナー
- 三菱新入六坑坑道実物展示コーナー
- 炭鉱の暮らしと文化のパネルコーナー

###### デジタル発信

- 展示資料、収蔵品のデータベース化
- データ情報の発信スペース及びシステムの整備

#### ②既存施設を収蔵庫施設として活用

- ・実習棟を収蔵庫としての機能を持たせた施設に一部改修し、活用する。

#### ③本館収蔵庫の一部改修

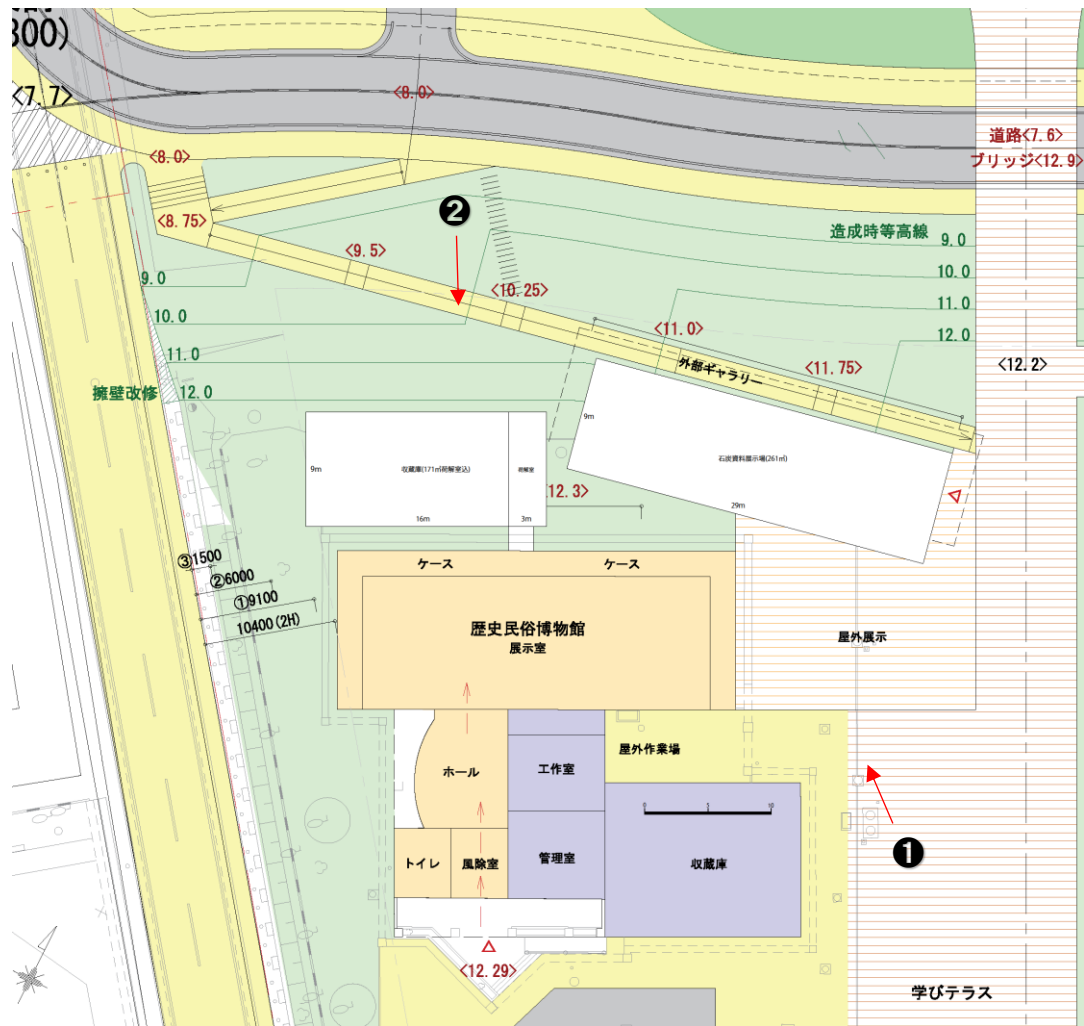
- ・本館内の収蔵庫を一部改修し、収蔵スペースの拡張を行う。

## (2) (仮称)博物館別館の構成

新設する収蔵庫・石炭資料展示場の他、既存の実習棟1号館2階、本館収蔵庫を活用し、文化財の保存と活用を行う。

新設収蔵庫	171	m <sup>2</sup>
新設石炭資料展示場	261	m <sup>2</sup>
実習棟1号館2階	360	m <sup>2</sup>
本館収蔵庫	66	m <sup>2</sup>
合計	858	m <sup>2</sup>

### ① (仮称)博物館別館(石炭資料展示場・収蔵庫) 予定配置図(案)

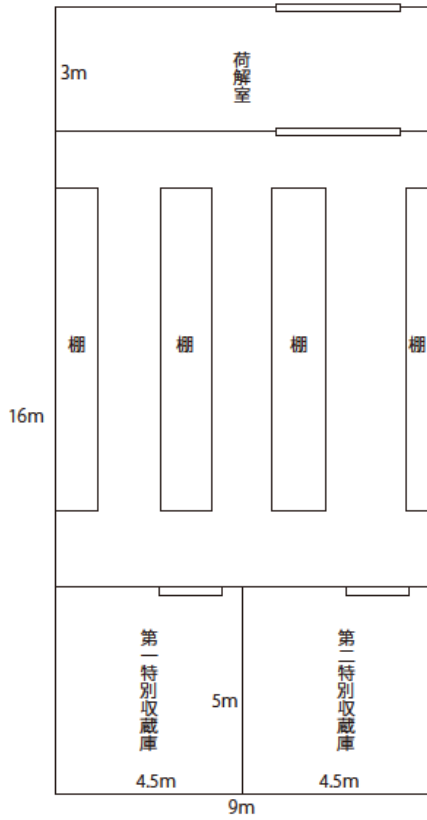


現状写真(撮影箇所①)



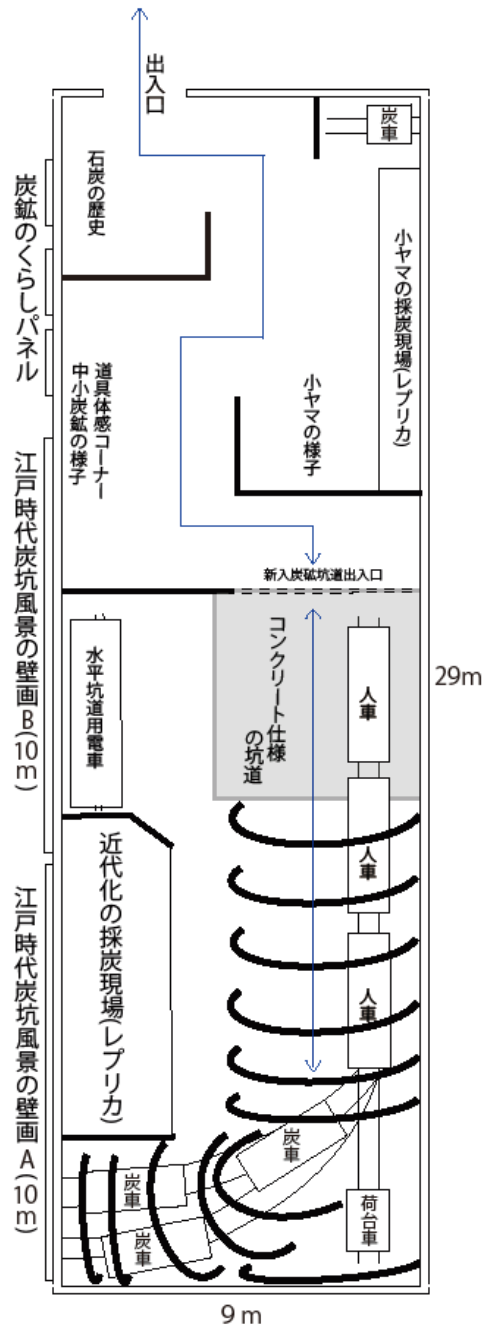
現状写真(撮影箇所②)

②収蔵庫図（案）



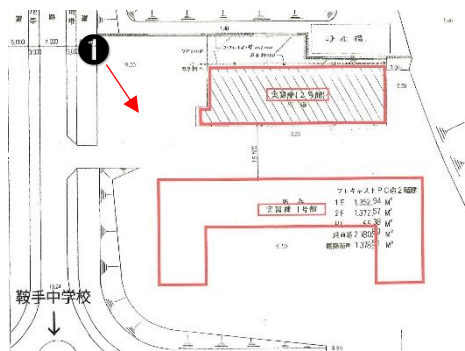
収蔵庫床面積 171 m<sup>2</sup>

③石炭資料展示場図（案）



石炭資料展示場床面積 261 m<sup>2</sup>

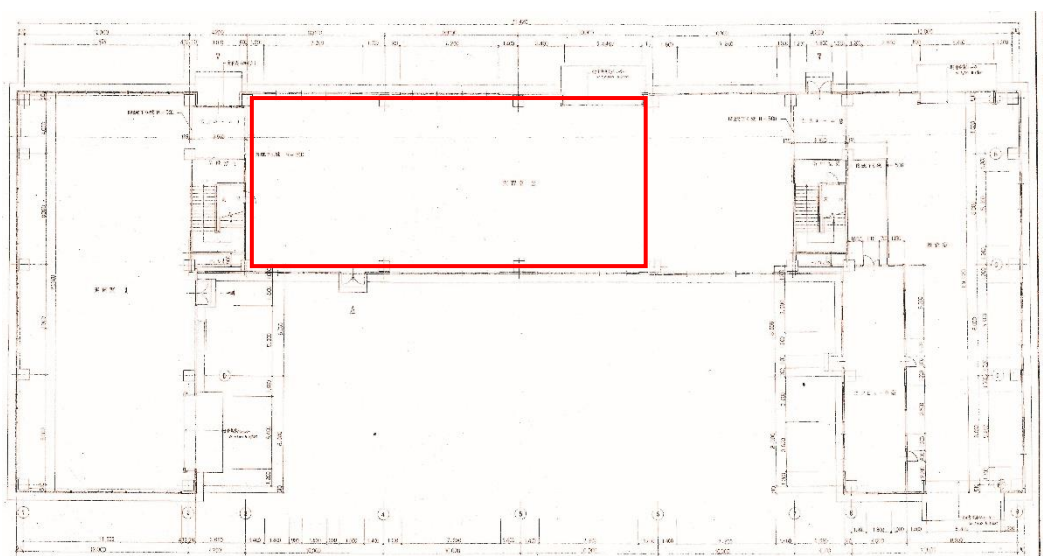
④実習棟使用範囲図（案）



実習棟全体図



実習棟外観写真（撮影箇所①）



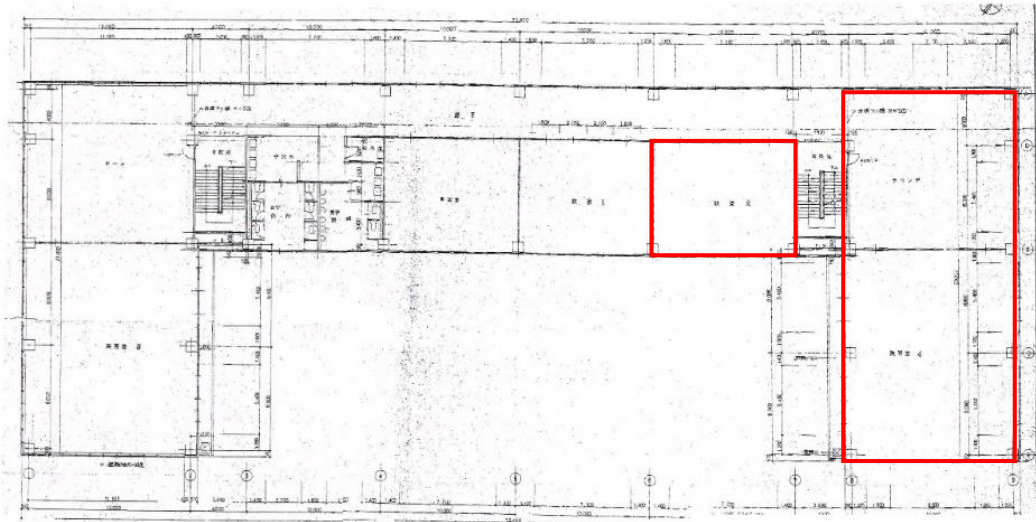
実習棟1号館1階 平面図 石炭関連資料仮置きスペース



石炭資料展示場 資料収蔵状況



実習棟1号館2階 平面図



実習棟1号館2階 平面図 文化財資料 保管スペース



実習棟1号館2階 東側実習室

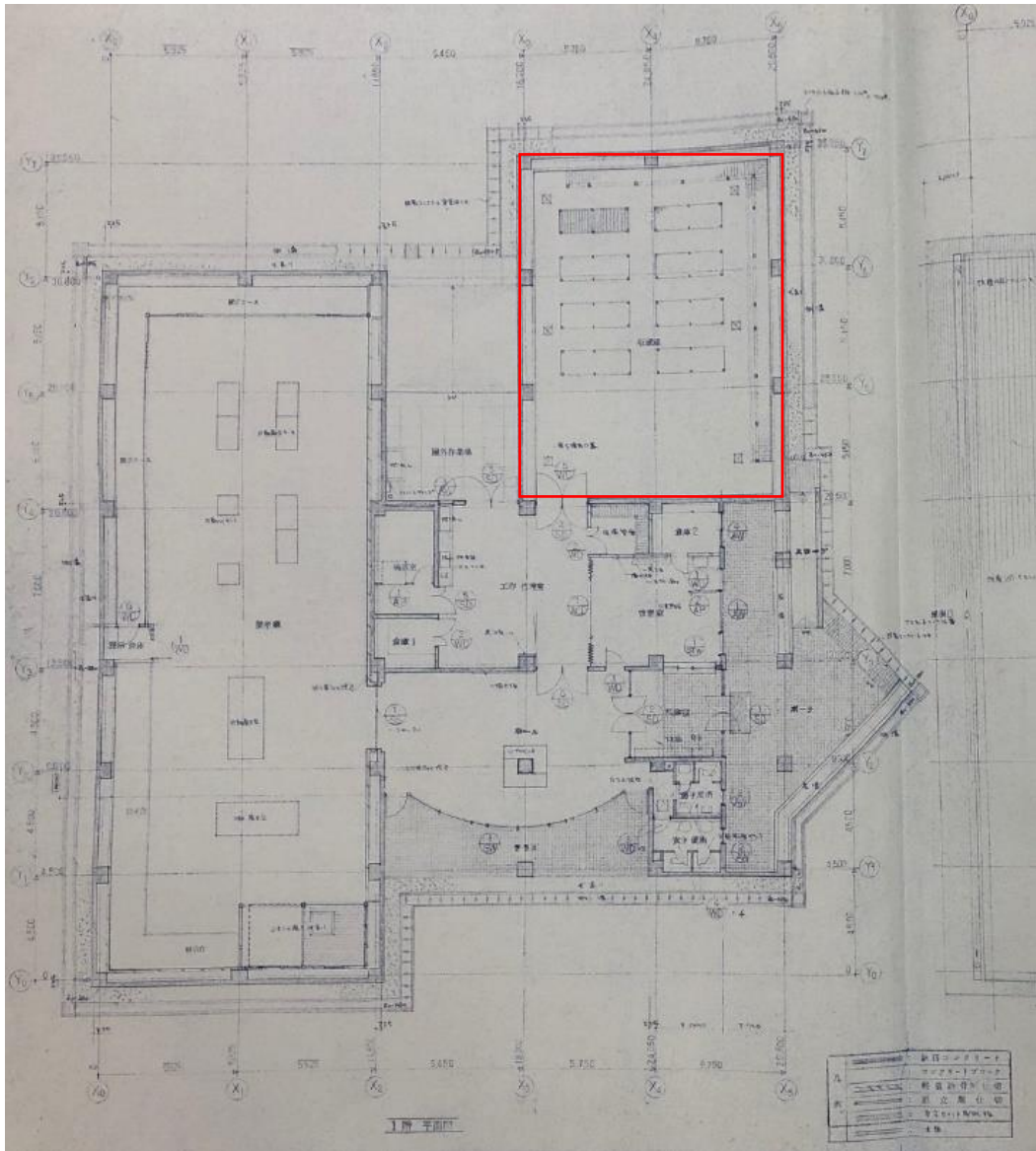


実習棟1号館2階 中央教室

□	対象範囲：実習棟1号館2階	東側実習室	280 m <sup>2</sup>
		中央教室	80 m <sup>2</sup>
		計	360 m <sup>2</sup>



⑤本館収蔵庫図（案）



□対象範囲：本館収蔵庫 棚増設 66㎡



本館収蔵庫

### (3) 建設予定地の立地環境

(仮称)博物館別館の石炭資料展示場は、新設するくからて病院側から、新庁舎建設に伴い整備する予定の防災こども広場へ上るスロープに沿って設置している。壁面には、壁画や、写真パネルを設置しており、炭坑の様子を外からでもわかるようにしている。展示場内部は、前石炭資料展示場の内部を踏襲しており、三菱新入炭砒の斜坑坑道や、小ヤマの採炭現場などを再現し内部に入るだけで炭坑を体験できる。

収蔵庫は、本館と石炭資料展示場の間に設置する。本館の展示室中央部分に、入り口を設け、直接展示室へと搬出搬入ができる仕様とする。外気に触れることなく資料の活用ができるので保存状態を良好に保つことができる。また、荷解室の壁の一部をガラス面にすることで見学ができ、保存と活用を同時に行い、文化財への興味・関心を高めることができる。

### (4) (仮称)博物館別館に係る概算事業費と事業スケジュール

事業内容は、建設工事やそれにかかる基本設計・実施設計のほか、内部の展示設計・展示工事、博物館本館棚の増設、地質調査や、基本構想策定・建設に係る支援業務、関連施設解体に伴う歴史資料の移転業務などである。今後の基本設計・実施設計により総額350,000,000円を目標金額として設定し、設計を行う。

事業スケジュールは、令和3年度に基本設計、実施設計及び造成工事を行い、令和4～5年度で建設工事、展示工事を実施する。開館は、庁舎の開庁に合わせ、令和6年の1月を予定とする。

事業スケジュール表

	令和3(2021)年度												令和4(2022)年度												令和5(2023)年度												
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4
(仮称)博物館別館 基本設計																																					
(仮称)博物館別館 実施設計																																					
(仮称)博物館別館 建設・展示工事																																					
令和6年1月 開館																																					

## 6. 新博物館の管理運営方針

### (1) 基本方針

本町の貴重な文化財を活かした学びの場を継続して提供することは、まちに対して「誇り」や「愛着」を持ち、自らもまちを形成している一人であるという意識を持つシビックプライドを高めることにもつながる。また、これらの文化遺産を後世に伝えるため、学校と連携した子ども学芸員事業を通じて普及と啓発に努め、各世代に豊かな学びの場を提供していく。

No.	事務事業(指標)	現状(H30年度)	目標(R6年度)
1	歴史民館教育俗博物普及事業(年間来場者数)	2,700人	4,000人
2	子ども学芸員事業(実施校数)	6小学校	6小学校
3	町の歴史・文化魅力発信事業(観光入込客数)	275,000人	330,000人
4	歴史民俗博物館別館建設事業	未実施	令和6年1月開館
5	指定文化財の保存・管理	随時	随時

### (2) 資料保存・活用

#### ①石炭関係部門

長崎県三菱石炭鉱業高島礦業所より寄贈された炭鉱の道具は、石炭資料展示場の内部に活用する。活用しない資料は、倉庫を設け一括保管を行い、内部の展示替えや、企画展の際、活用する。希望があれば、石炭資料として閲覧見学できるようにする。

#### ②民俗関係部門

100年、200年後の教育普及資料を目指し、生活関連資料の収蔵及び保管に努める。鞍手町の歴史の証として数百年にわたり、引き継がれてきた地域の伝統行事を保存継承する支援を行う。

#### ③考古・歴史部門

資料の保管と活用については、鞍手中学校敷地内にある旧専門学校の実習棟を主施設とし、保存環境の安定を図り、資料の閲覧や見学を希望される場合に備えて、作業整理室を設ける。

### (3) 教育普及

- ・各小学校の6年生を対象とした子ども学芸員事業を継続して行い、鞍手の歴史講話や古代の歴史体験を行う。
- ・博物館においても歴史体験講座や、火おこし体験、むかしの遊びなどの体験を主とした活動を行う。
- ・旧専門学校の実習棟を考古資料の収蔵施設とすることにより、鞍手中学校との連携の機会を増やし、今後は、鞍手中学校歴史部の新設を目指す。
- ・子ども学芸員事業で鞍手の歴史に興味を持った生徒に中学校でも学べる環境を整え、ふるさとを考え、郷土愛を育む場を設ける。
- ・博物館の事業として、年間に10回程度の歴史講座を行い、鞍手の歴史について学ぶだけでなく、近隣市町村の文化財担当者を講師として招き、鞍手との繋がりや、関係について学ぶ。
- ・歴史講座だけでなく、子ども向けの体験講座(勾玉作り、火おこし等)を実施する。
- ・歴史ボランティアの拡充を行い、地域ぐるみで博物館を盛り立てていく。

### (4) 調査・研究

- ・開発における埋蔵文化財の遺跡分布調査やそれに伴う発掘調査等を行う。
- ・古文書講座(伊藤常足家文書、金川家文書の読み下し等)を継続して行い、地域の研究を行う。
- ・炭鉱勉強会を継続し、鞍手の炭鉱を伝える活動を行う。
- ・町内外に情報を発信し、鞍手町の歴史を後世に伝える。

## 資料 近隣の石炭関係展示施設

---

### (1) 田川市石炭・歴史博物館

開館：昭和 58(1983)年(田川市石炭資料館)  
※平成 17(2003)年田川市石炭・歴史博物館へ改称  
テーマ：石炭・炭鉱  
面積：2,273.62 m<sup>2</sup> 活動内容：企画展・講座  
資料点数：1万5千点(石炭資料関連)

### (2) 直方市石炭記念館

開館：昭和 46(1971)年  
テーマ：筑豊炭田は明治の初めから昭和 51 年までの約 100 年間に約 8 億トンの石炭を産出し、日本の産業発展、近代化に貢献してきた。「炭鉱の歴史」を後世に伝えるため、直方石炭記念館が誕生した。  
面積：664.93 m<sup>2</sup> 活動内容：企画展、バーチャルミュージアム  
展示点数：約 300 点

### (3) 宮若市石炭記念館

開館：昭和 52(1977)年  
テーマ：貝島炭砦の歴史と貝島私学の歴史などを基本に、宮若市の石炭の歴史を始め、近代日本のエネルギー源であった石炭の果たした役割を知ることができる。  
面積：840 m<sup>2</sup> 活動内容：炭鉱関係絵画、現場再現

### (4) 大牟田市石炭産業科学館

開館：平成 7(1995)年  
テーマ：石炭を中心としたエネルギー資源に関する科学館。  
面積：約 3,000 m<sup>2</sup> 活動内容：館内展示、管内ガイドツアー

### (5) 長崎市高島石炭資料館

開館：昭和 63(1988)年  
テーマ：三菱高島炭鉱、端島炭坑操業時の活力溢れる姿を後世に伝える  
面積：511 m<sup>2</sup> 活動内容：模型展示、屋外展示  
展示：1階、2階、外庭展示

### (6) 宇部市石炭記念館

開館：昭和 44(1969)年  
テーマ：石炭産業によって飛躍的な発展を遂げた炭都・宇部。永年にわたって宇部市発展の基盤となった石炭産業を後世に伝えようと開館した。  
面積：942.33 m<sup>2</sup> 活動内容：モデル坑道展示、屋外展示、ブログ等  
資料点数：3,000 点





# 鞍手町歴史民俗博物館基本構想

令和3年4月発行

編集・発行 鞍手町教育委員会

〒807-1392

福岡県鞍手郡鞍手町大字小牧 2105 番地

TEL 0949-42-7200 FAX 0949-42-0149

町公式 HP <https://www.town.kurate.lg.jp>

町公式 FB <https://ja-jp.facebook.com/town.kurate>

「ふっ」と笑顔になる。  
「て」を伸ばせば望みに届く。  
探せば「ふく」も見つかる。  
ふっくらくらて。



**【ふっくら くらて】 [名詞]**

鞍手町にあるヒト、モノ、コト、バショについて、  
良いところを見つけ出し、育て、デザインすること  
によって町民みんながふっくらと幸せになるさま。

「ふっくらくらて」は、鞍手町のコミュニケーションマークです。